



特集「建設分野の魅力」第39回

株式会社前野組 水野 寛之 さん



仮設工

雨水や仮設トイレなどの下水や排水を仮配管するのが仕事。解体・建築前から、いち早く現場に入った。監理技術者として4、5人の作業員をまとめた水野さんは「勾配が図面と少しでも違えば、水が流れず土砂はたまってしまう。現場で働く人が作業しやすいように、そして大雨の際に雨水や土砂が近隣住宅に流入しないように気を付けたと振り返る。構造物そのものには関わらないが、現場にいないとわからない。縁の下の力持ちだ。

前野組は仮設工だけでなく道路舗装なども手がける総合建設業で、水野さんも

現場を下支え 達成感は格別

約30年間さまざまな仕事に関わっている。「仕事で一番好きなのは、黒々とした舗装道路の上に白いラインを入れた瞬間。造ったものが長く形に、そして地図にも残る。若い人がもつともつくりの達成感や楽しさを味わえるような職場づくりを進めたい」と話している。



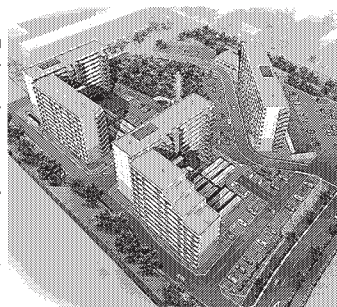
仮設工事を担当した現場を施工図で説明する水野さん

住宅や学校、道路や橋など、私たちの生活を守り、快適にするための構造物を造り上げるのが建設業の仕事。その構造物は、さまざまな職種、多くの人たちが築き上げる力の結集だ。関わる仕事内容はさまざまでも、形として長く、そして地図に残る喜びを感じる人がほとんどだ。現在、神戸市内で進められている県営新多聞住宅の工事現場を訪れ、活躍する5人に仕事のやりがいやこだわりについて聞いた。

(取材協力=兵庫県建設業育成魅力アップ協議会)

活躍の5人に聞く

「県営新多聞住宅」建て替え完成予想図。中央手前が第1期建築工事



県営新多聞住宅建築工事。老朽化が進む「新多聞住宅(1972年建設)」の建て替えを行う。全体を3期に分けて進める予定で、今回の第1期工事(2021年10月~24年2月)は鉄筋コンクリート造10階建て1棟134戸を建設。エレベーターの設置や一定の断熱性能の確保などを行い、バリアフリー化や脱炭素化に配慮した住宅に生まれ変わる。



老朽化が進む「県営新多聞住宅」の建て替え工事=いずれも神戸市垂水区が丘3

県営新多聞住宅の工事現場を訪問



地図に残る仕事に誇り

丸正建設株式会社 高木 斗椰 さん



現場監督

入社8年目で、4人の現場監督のうち最年少の高木さん。年上の職人に積極的に話しかけ、住民とのあいさつや何げない会話を朗らかに交わす姿が印象的だ。「人とコミュニケーションを取るのが得意」とい、「話しやすい環境をつくれれば、現場で発生する問題に早く対処できる。そして働く人たちが自社だけでなく全体を気にかけて、よりよい建築物に仕上げようと思ってくれる」と経験から学んだという。出入りする職人は多い日で約60人。現場監督はオーケストラを束ねる指揮者に例えられる。

塗装工の父の背中を見て

建造物の完成 見届ける喜び

育ち、早くから現場監督を志して兵庫工業高校に進んだ。「この現場の工期は2年半ほどだが、着工から完成まで見届けられるのは現場監督だけ。そこにやりがいを感じる」と高木さん。「次の現場でも一緒に仕事したいね」と言ってもらえるような現場監督になるのが目標です。



柱や壁の基準線を書き出す墨出し作業にあたる高木さん

関西建設工業株式会社 濱田 司 さん



現場監督

適正な品質とスケジュールで安全に進んでいるか、工事を管理するのが現場監督。今回は大規模工事のため複数の建設会社が共同企業体(JV)を組み、4人の現場監督が重責を担う。そのトップを務める所長のもと、濱田さんら若手は職人たちがスムーズに動けるようにさまざまな段取りを行い、進捗や納品状況を細かく記録しながら工事完成へと導く。

内装工事に携わる父の影響で自宅近くの兵庫工業高校で学び、関西建設工業に入社して13年。JVには初参加で、多くを学び吸収する毎日だ。この現場ではすでに完成棟に入居する

住民から感謝 受けて充実感

住民から「きれいに造ってもらってありがとう」と声をかけられたといい、「少しでも人の役に立てたかなと思うとうれしかった」と笑顔を見せる。「もし将来、自分に子どもができたときは、父にしてみようと思ったように『お父さんがつくった建物だよ』と見せてあげたい」

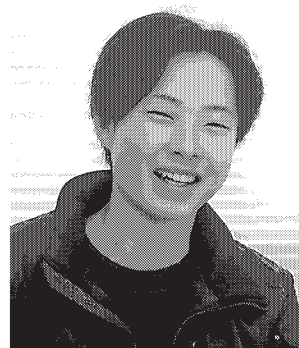


完成時には見えなくなる鉄筋の設置状況をチェックする濱田さん

株式会社南部組

職人氣質変化し働きやすく 左宮工

丹治 響貴さん



各戸の玄関やバルコニー、共用部分の廊下、階段…。工具を使って、壁や床にモルタルを美しく塗り上げていく。入社5年目の22歳。リーダーとして2、3人の職人を束ねる。中学時代の先輩から誘われて、左宮工という職業を知らずに入社したという。「自分で言うのもなんだけど、手先は器用な方。この仕事を選んで本当によかった」と笑顔で話す。先輩にマンツーマンで教わり、約3年で職長として活躍できるまで成長した丹治さん。「職人氣質とか言われる世界だけど、時代とともに変わってきたように教えてあげたい」



団地の共用部分の壁にモルタルを塗る丹治さん

建具工

公共工事に関わりやすい

兵庫新装サッシ株式会社

藤井 光さん



サッシが寸法通り設置されたかを確認する藤井さん

鋼製建具を納める建具工の日程を管理し、搬入やトラブル時は現場で対応にあたる。サッシを順序よくスケジュール通り設置することを心がけた。すべて納め切った、大きな構造物が完成したときの達成感は大さきい」と話す。

兵庫新装サッシは新築だけでなく改修工事も受注。古い窓に新しいサッシを設置する「カバ工法」は経験が必要で、「まだ入社4年目で日々勉強中」という。仕事の魅力については「例えばサッシを担当した学校のそばを通るたび、感慨深い気持ちになる。県や市の公共事業に関わるやりがいは大さきい」と話した。

